



第79回国民スポーツ大会冬季大会(スケート・アイスホッケー9日目)

アイスホッケー、少年男子と成年男子でダブル入賞の快挙！！

アイスホッケー少年男子・成年男子が、第76回大会(R3)以来のダブル入賞を果たした。冬季大会前半に行われたスケート競技(ショートトラック・スピード・フィギュア)が生み出した勢いに乗り、結果を出した。この勢いは、本県の目標である「男女総合成績8位以内入賞」に向けて、13日(木)から始まるスキースキ選手団の追い風となるに違いない。

アイスホッケー少年男子、後半の追い上げ及ばず、東京都に敗れる

4日(火)、ヘルスピーア倉敷アイスアリーナで行われた7・8位決定戦で、東京都と対戦した。第1ピリオド、序盤から相手のプレッシャーに苦しめられ、連続して得点を奪われる。第3ピリオド、0-8と大差をつけられるが、本県選手団は意地を見せ、一挙に3点を奪い返すも、3-9で試合終了。しかし、最後まで諦めずに戦い抜き8位入賞を果たしたことは、今後、選手の自信につながる結果となった。



少年男子選手団

安谷啓二監督(株)安谷製作所のコメント

「ベスト4を目指していたため、達成できず残念だが、次回に繋がる大会となった。次の国スポも頑張りたい」

アイスホッケー成年男子、白熱の大接戦！1点が遠く、PSSの末、惜敗

4日(火)、岡山国際スケートリンクで行われた7・8位決定戦で愛知県と対戦した。第1ピリオドは序盤からお互い一步も譲らない展開となり0-0で終了した。第2ピリオドの開始早々に1点を先制された。逆転を目指し、果敢に攻めるも得点は奪えず、勝負は第3ピリオドへ。勝利を目指した第3ピリオドで、ついに平嶋高太郎選手(法政大学)が同点ゴールをねじ込み1-1とした。その後は、膠着状態のままタイムアップ。緊張感漂うPSSでは愛知県に2点を許し敗れたが、堂々の8位入賞となった。



成年男子選手団

キャプテン渡邊佳鴻選手(九州旅客鉄道(株))のコメント

「今日の試合を含めて、勝てた試合を逃したことは、とても悔しい。来年に課題が持ち越されたと思う。今年のチームは選抜チームとして幅広い世代の選手が集う中で、半年間チームづくりをしてきた。最後は結果として負けてしまったが、プレーとしては練習してきたことを体現できた。私たちは、福岡のために戦うことやジュニア選手から憧れられるチームを目指すことを次の世代にも繋ぎたい」

長澤理事長(福岡県アイスホッケー連盟)が、入賞の要因を振り返る

長澤誠治理事長

「各種別のキャプテンがチーム作りに貢献してくれた。成年チームは、8月から県内選手とふるさと選手を交えた強化活動を重ねたことで総合力が高まった。少年チームは、年間を通じ、週4回の強化練習に取り組み結束力を高めることができた。今回のダブル入賞は、ジュニア世代からの一貫指導の成果とも考えられる。今回の結果をモチベーションに変えて、今後の活動に取り組みたい」

スケート競技、アイスホッケー競技からスキースキ競技へ襷をつなぐ！

岡山県、群馬県で開催された第79回国民スポーツ大会スケート・アイスホッケー競技会が幕を降ろした。本県は両競技で、昨年(85点)、一昨年(87点)を上回る90点を獲得し、13日から秋田県で開催されるスキースキ競技会へ襷をつなぐ。スキースキ競技選手団には冬季大会のアンカーとして、本大会へ襷をつなげてもらいたい。

5日(水)終了時点の本県成績 男女総合成績(天皇杯)13位 女子総合成績(皇后杯)10位